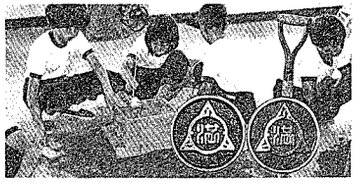
合い〟〟人とのふれあい〟

ます。

また、日曜日に部活動をやることもあるので、中学生にとって、第二土曜日は、休みが半日増えたゆっくり休めるというのが本音です。

満日小六年生が、新津工業高校にある炉を利用させていただいて〝アルミ缶のリサイクル体験〟に挑戦しました。空き缶を一度とかして作りなおしてメダルを作りました。身近かな材料でお金をかけないで、新しい体験と新しい発見をしてきました。



9月11日　満日小6年が新津工業高校でアルミ缶リサイクル体験

井上　当初心配していました生徒指導上の問題が、第二土曜日におきていないので安心しています。

これまでの過ごし方をまとめますと、

○誰と…友達や家族といっしょ

家族というのが三割もありました。

○どこで…自分の家でが多い。

○何を…友達同士での遊び

休養にあてる

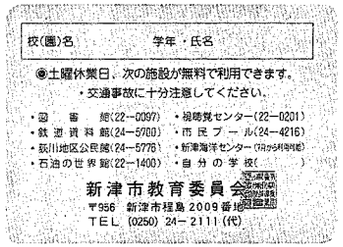
また、五～六人のグループで自転車にのってあちこちへなどもあります。

まだ、余裕がないこともあって、自分で考えた楽しみ方が十分でないものもあります。

斉藤　教育委員会のやることは、皆さんがやりやすいように条件を整備していくことです。体育館やグラウンドでの事故にそなえて保険に加入したり、公共施設が利用できるようにパスポートを発行しました。五月から九月までの利用者の総数は一、六三三人でした。

また第二土曜日に市の行事をということで春と秋の市民マラソン大会を六月と十月の第二土曜日に実施しました。春、二三五人、秋三五六人、あわせて五九一人の人が参加してくれました。

(表)



(裏)

司会　順調にスタートしたようですが、心配なことや不安を感じていることはなかったでしょうか。

心配なこと不安なこと

笠原　休みがふえることによって、平日のゆとりが減るのではという不安を親は持っています。

金内　学力の低下をきたさないということから、まず休みが増えても授業の時間は確保します。そこで、行事の精選が必要になってきます。練習時間のカットや子供達が楽しみにしているものが減ることもあります。

笠原　ジレンマのひとつに、運動会の入場行進がなくなりました。入場行進はきちっとやらせたい。親の期待もそこにある。しかし、時間がとれない。その結果、入場行進なしと形を変えて行なわれてしまうのです。

井上　学校週五日制の実施によって三十三時間がなくなります。教科の時間が減らないようにするためにも、学校行事にしわよせがきます。子供達が楽しみにしていた行事を、なぜへらすのだという意見もありますが、今や発想を変えて行く時代に入ってきたのではないでしょうか。

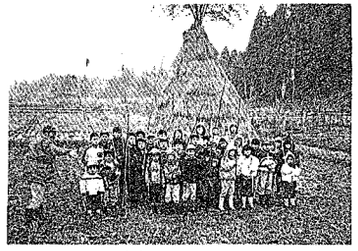
保護者との話し合う時間がほしいものです。

沢田　私のところでは目に見えて減った行事はないように思います。

清掃のやりかたが変って低学年の帰りが遅くなることがあります。くわしい説明がないと、五日制のために帰りが遅くなったと勝手に解釈しがちです。

話し合いやＰＲが不足するとお互いに自分の都合のよいほうに解釈するきらいがあります。

金内　学校の制度がどんどん変っているので、学校と家庭との連携はどうしても必要です。



1月15日(金)　蒲ケ沢さいの神行事

7月10日(土)　中沢町　村松町青少年自然の家

子供達の活動は〟自然との出

司会　学校制度の見直しによって、これまで以上に学校と家庭の連携のあり方が問われています。皆さんのところはどうされていますか。

学校と家庭との連携

井上　保護者の皆さんのささやき、つぶやきに耳をかたむけ、広報活動を始め学年ＰＴＡなどの機会を利用して、考え方や連絡をこまめにやる必要があります。

長谷川　学校だより

が校区の全世帯に回らん板で回るので、お年寄りもわかります。また、小学校の行事予定表にコメントがつけられていて助かっています。

中学生は、今は休養にあてていますが、自分たちで判断して参加できるようなメニューをのせていただくと、よいと思います。

また、パスポートの利用についても校内のきまりが改められていないため、子供達だけで、町の中心部へでれないでいるところもあります。

子供達の道路上での自転車のりのマナーも悪く、ゴミのポイ捨てもあったりして、今のところ非行よりも交通事故が心配です。

沢田　学校の週五日制の趣旨から、時間のゆとりができてよいとか学歴重視からの脱却がはかられるといわれ、私も大賛成です。

しかし、まわりを見ると、十分時間をとって学力をきちんとつけてください。子供達の楽しみをうばわないでください。等々今までとさほどかわりません。

広報の改善も含め、わかりやすい方法で、くり返し理解を求めて行く必要があります。

8月22日(日)23日(月)中学生も大勢参加しての古津のサマーキャンプ

長谷川　何かことがおきると、学校が悪い、いいことがあると、家庭がよくやっているからだと、親の方で勝手に自己判断をしているところがあります。

親がすべきことを他に押しつけていないか、考えてみることも必要ではないでしょうか。

井上　今のところ、第二土曜日の過し方は遊びが多く、でかける時の交通マナーも十分とはいわれません。

今後、中学生の選択肢の中に遊びながら参加できる魅力ある事業の開拓に目を向ける必要があります。

金内　新しい学力観でも、〝自ら学ぶ意欲をもって、たくましく、主体的に学ぶ子供の育成〟がうたわれています。

こういうことができる子供に育てば、休みが増えても大丈夫ですし、それができるようにすることが大事になってきます。

司会　皆さんのお話の中に、話し合いを深めることが大事だとの意見がたくさんありました。意見交換の観点をお聞かせください。

理解は、意見の交換から

金内　今年から、学校にＰＴＡ室を作りました。今日の座談会のように、自由な雰囲気の中で、共に語り合うためのものです。

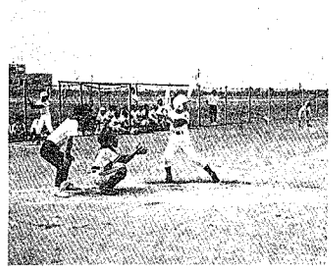
いろいろな本が出版され判断に迷うことがいっぱいあります。子供にとっていいものは何か、この部屋を大いに活用して語り合いの場にしたいと考えています。

井上　学校の職員も年令の幅は大きく、考え方もいろいろ、日本中もさまざまな考え方が多く、どこに焦点をあててよいかはっきりしません。

今、自分で考えてやって下さいと言ったらひとつは、放任。もうひとつは過干渉の両極端に分かれるのではないでしょうか。

中学生と言っても、これまで過保護でした。人にたよったり友達に相談しないと遊びも決められません。親や教師の目のとどかない所できちっとできる子が目標です。お互いに研究していきましょう。

笠原　親が全部お膳立てしてやっているきらいがあります。もっと子供達が考え、計画し、実行できるようにして行けないものかを語り合う必要があります。



沢田　学校のきまりを見直しました。自転車のりについて学年ごとの枠を取りはらい「自分の家の人と相談して行き先きを決める」ことにしました。身近かなことを話し合うのもよいことです。

長谷川　親がきちんと意見を述べることができることも意見交換での大事なポイントではないでしょうか。

司会　学校と保護者との理解度が強ければ強いほど、この制度の推進が図られるのではないか、各学校でもこういう座談会が続くことを期待し、閉会とします。

ありがとうございました。